

教育委員会会議録（1月定例会）

日 時

平成31年1月24日（木）
午後1時30分から午後2時35分まで

場 所

日立市役所 庁議室

出席委員

教育長	中山 俊恵
教育長職務代理者	中村 雅利
委 員	上村 由美
委 員	朝日 華子
委 員	土屋 静治

委員以外の出席者

教育部長	窪田 康德
総務課長	松本 正生
学校施設課長	石川 涉
学校施設課課長（新調理場建設担当）	佐藤 行男
学務課長	中島 修
生涯学習課長	飯塚 優
スポーツ振興課長	木下 俊雄
指導課長	折笠 良平
指導課課長	稲田 訓子
郷土博物館長	豊田 瑞穂
記念図書館長（兼）視聴覚センター所長	山田 美幸
教育研究所長	勝間田 忠彦
宮田調理場長	荒川 敏明
総務課課長補佐（兼）庶務係長	鷲 秀哉
総務課課長補佐（兼）計画財務係長	酒地 康彦
総務課主幹	芳賀 秀人

議 事

報 告

報告第1号 教育委員会12月定例会の会議録について

議 案

議案第1号 日立市教育振興基本計画の策定について

議案第2号 日立市指定文化財の指定について

その他

- (1) インフルエンザ様疾患発生による学級閉鎖の状況について
- (2) 記念図書館キャラクターについて
- (3) 教育委員会関連行事等について
 - ア 2019年日立市成人祝の実施報告について
 - イ 学校運営協議会制度全体研修会について
 - ウ 映像制作学習の作品発表会について
 - エ ひたちシネマスペシャル「カトマンズの約束」について

会 議 の 概 要

1 開 会

教 育 長 それでは、只今から1月の教育委員会定例会を開催します。
 本日は、傍聴希望者が2人おります。
 傍聴を認めてよろしいでしょうか。

全 委 員 結構です。

(傍聴人入室)

2 報 告

報 告 第 1 号 教育委員会12月定例会の会議録について

教 育 長 それでは、まず、報告第1号について御意見を伺います。
 いかがでしょうか。

全 委 員 特にありません。

教 育 長 それでは、本件については、承認されました。

3 議 案

議 案 第 1 号 日立市教育振興基本計画の策定について

教 育 長 それでは次に、議事に移ります。
 議案第1号について、総務課長から説明をお願いします。

総 務 課 長 日立市教育振興基本計画の策定に当たりましては、教育、生涯学習、スポーツの各分野の関係者などで構成する日立市教育振興基本計画策定委員会を設置し、これまで、5回にわたり、協議を進めてきました。今般、計画案がまとまったことから、策定について提案するものです。

 まず、計画の趣旨、計画期間です。

 本市では、これまで、「日立市学校教育振興プラン」や「日立市スポーツ振興計画」に基づき、様々な教育施策を展開してきました。

 これらの計画に位置付けた事業は、おおむね計画通りに進めてきましたが、少子高齢化の更なる進行など教育を取り巻く環境は、ま

すます厳しさを増しています。

そこで、時代の様々な変化に対応できるよう、平成31年度から5年間の本市が目指す教育の姿と施策の方向を示すため、学校教育、生涯学習、スポーツの各分野からなる、総合的な教育計画として、策定するものです。

基本理念は、社会の様々な分野の動きが早くなることに加え、将来の予測が困難な時代の中で、夢に向かって、未来を拓く人材の育成が求められる観点から、「未来を拓く人づくり」としました。

施策の体系については、基本理念の下に、各分野の推進テーマを設定し、そのテーマに沿った施策の柱を位置付けて、体系としています。

そのうち、学校教育については、6つの柱がありますが、その柱を下支えする位置付けで、「よりよい教育環境づくりのために」としています。こちらは、学びの基盤づくりとしての学校再編と教職員が子どもとより向き合える環境づくりです。

学校教育の推進テーマ「いいところ発見 夢づくり」は、「自分にはこんないいところがある」、「自分は周りの人の役に立っている」と思える「自己肯定感・自己有用感」を高め、他人も認めながら、未来への夢を描くことができる学校教育を推進するものです。

生涯学習の推進テーマ「ゆたかな学び 未来につなぐ 人づくり」は、ゆたかな学びにより培われてきた知識や技能を未来につなげるよう、市民の誰もが生涯にわたって生き生きと過ごすことができる生涯学習を推進するものです。

スポーツの推進テーマは、「楽しくスポーツ 活力づくり」です。スポーツ活動を推進することは、健康増進はもとより、仲間づくりやコミュニティの活性化の効果も期待されることです。そこで、幅広い市民を対象としたスポーツを推進し、健康で生きがいを持って暮らせる、活力ある健康都市を目指すものです。

その各テーマを推進し、基本理念を実現するために、今後5年間に取り組む主な内容を計画の特徴としてまとめました。

未来を拓くプロジェクトとして、5つのプロジェクトを展開します。

「確かな学力の育成」と「教育環境の向上」のプロジェクトは、教育環境を更に整え、学力向上を目指すものとなります。

「確かな学力の育成」の具体的な取組としては、教育委員会だけでなく、学校長等で構成する日立市教育研究会との連携による学力向上に向けた取組の推進や、2020年度に小学校、翌2021年度に中学校の新学習指導要領が全面実施されることに備え、特に先生が不安に感じている小学校での英語教育やプログラミング教育などについて、校内研修の支援をします。

また、現在取り組んでいる小中連携に加え、小中一貫教育につい

でも導入を推進していきます。

「教育環境の向上」では、新たに校舎等の長寿命化改修計画の策定に取り組むなど、子どもたちの安全確保を図ります。

また、地域全体で子どもたちの豊かな育ちを確保するため、学校運営協議会制度の推進を図ることを位置付けています。

次に、「放課後や休日の活動環境の充実」です。地域全体での子どもの豊かな育ちのためには、放課後や休日の安全安心な居場所を作ることも大切な取組となります。

そこで、放課後子ども教室の開設数を増やすことや、市保健福祉部の取組となりますが、児童クラブの開設時間の延長に取り組みます。

また、子どもたちが本市の文化や地域資源について学び、理解を深めることで、郷土愛を育む取組、「ひたち大好き博士制度」の創設に取り組みます。

次に、「文化財の活用」では、文化財の計画的な保存と活用を図るため、文化財保存活用地域計画の策定に取り組むとともに、日立風流物展示施設等の整備や長者山遺跡の活用を位置付け、「スポーツの振興」にあるスポーツ合宿の誘致推進と併せ、まちのにぎわいづくりや交流人口の拡大を目指します。

また、スポーツの振興では、スポーツ施設の整備推進を位置付け、市民ニーズを捉えた施設の利便性向上を目指し、スポーツによるまちの活性化を目指します。

続いて、「ひたちらしさ」を活かした取組です。キャッチフレーズを「教育は日立市で！」とし、生涯学習、スポーツを含め教育環境の向上に努め、誰からも「教育は日立市で！」と思われる教育の実現を目指すものです。

具体的な取組として、学校教育では、「未来を拓く力を育む学校教育」とし、まず、「ひたちのルーツを学ぶ」として、郷土博物館や小平記念館など、特色ある教育施設を活用した校外学習の実施を掲げています。また、「科学する力を育む」では、日立理科クラブの授業支援、「一人一人の夢を育む」では、本市独自の取組である「未来パスポート」を活用した自己肯定感・自己有用感を高める教育の実施などを掲げています。

生涯学習の分野では、「生きがいや喜びを見出す生涯学習」とし、まず、「未来の夢を体験する」では、子どもたちが様々な職業を探検できる活動、職業探検少年団への支援、「学ぶ意欲に応える」として、「ひたち生き生き百年塾」による生涯学習活動の推進、「日立の文化の魅力発信」では、日立風流物や長者山遺跡などの文化財を活用する取組などを挙げています。

スポーツの分野では、「健康と活力を生み出すスポーツ」とし、「スポーツの拠点づくり」では、さくらアリーナを活用した取組、

「自然環境を活かしたスポーツ交流」では、旅館組合との連携によるスポーツ合宿の誘致などを挙げてあります。

このほか、ひたちらしさという点では、郷土教育にもつながる「日立力」についても、計画策定の前提として位置づけているところです。

このような「ひたちらしさ」に取り組むことで、「教育は日立市で！」と思われるよう目指すとともに、基本理念の実現に取り組みます。

今回の計画案では、わかりやすさについても配慮いたしました。具体的には、現在取り組んでいる事業の写真での紹介や、コミュニティを始め、地域ぐるみで、生涯学習、スポーツを含め、教育に関わっていることを示すポンチ絵の掲載をしました。

また、施策の柱とは別に、新学習指導要領に対応する取組、子どもたちが安全安心に過ごすための取組、教職員が子どもとより向き合うための取組を、それぞれポンチ絵にまとめてあります。

ポンチ絵で示すことで、教育関係者以外の方にも、内容を伝えやすくすることができるよう努めました。

続いて、「計画の実現に向けて」、進行管理についてです。

計画の進行管理は、教育委員会に毎年の実施が義務付けられている点検評価制度により行います。

この点検・評価は、学識経験者等からの意見も伺うことになっており、その結果は、議会に報告するとともに、市ホームページで公表していることから、客観的な進行管理ができると考えております。

委員 「未来を拓く人づくり」を基本理念として、それぞれ非常に分かりやすくまとめられていると思います。また、進行管理の部分で、きちんと事業の検証がされる仕組みができていることもよかったと思います。

「ひたちらしさを活かした取組」は、これまで日立市が取り組んできた実績を中心にまとめられたもので、それぞれ評価されるべきだと思いますが、これらは日立市が提供できるいわゆるニーズに対するシーズなのではないかと思います。

一方で、教育を受ける側である児童・生徒の保護者のニーズがこれらの取組に反映されたものであれば、教育を受ける側に寄り添った違う視点の事業もあったかもしれません。

この計画に書き込まないまでも、そのようなニーズの把握はこれからも続けていくべきだと思います。

総務課長 今回の計画の策定に当たりましては、平成29年度に児童・生徒、教職員、保護者を対象として、本市の学校教育に関するアンケート

調査を実施しております。保護者の方からは約1,200名から回答をいただきました。その中でも、情報化社会、グローバル化社会に対応できるような教育をという声も入っております。

今回の計画においても、そのような声を反映させた形で策定してまいりましたが、今後新たな取組を検討していくに当たりましては、この調査結果等も貴重な資料ですので、それらを活用しながら進めたいと考えております。

委 員 今回、生涯学習やスポーツの分野を入れ込んだ計画ということで、教育との整合性も取れており、充実した内容になっていると思います。

「小中連携・一貫教育の推進」に関しては、現在も中里小・中学校を中心に展開されており、効果が上がっていると聞いています。計画において、【拡充】する事業となっていますが、具体的な方向性は何か決まっていますか。

総務課長 只今の委員からのお話にもありましたとおり、現在、中里小・中学校を中心に各学校で取り組んでいるところですので、更に発展させるような形で推進していきたいと思っております。

教 育 長 小中一貫教育については、平成10年代から各学校で連携を進めているものですので、今後更に具体的に推進していくことになるかと思っております。

指 導 課 長 現在、市内全ての小中学校で連携が取られているところです。このことにより、学習指導、生徒指導、学校行事など様々な分野で、学区内の子どもたちを同じ方向性で育てていくという体制が整っています。

小中一貫教育とすることで、9年間を見通した教育となり、大きな特徴は、9年間の教育課程を編成することにあります。また、卒業期である中学校3年生の時に、9年間の目標がきちんと定まり一貫性が出てくることや、教職員の組織が一つになるというようなメリットがあります。

今後の拡充に向け、学校数や時期などのはっきりとした計画は立てておりませんが、最終的な目標としましては、市内の小中学校全てが同じ方向で、9年間連続して学べるカリキュラムが編成できればと思っております。

つまり、市内のどこの小中学校に行っても同じ教育が受けられるということが小中連携の最終的なメリットになるのではないかと考えています。

教 育 部 長 本市においては、学校が多いことと児童・生徒数が減っているということが特徴としてありますので、今後、学校再編等を進めていく中で、ハード的な一貫教育の方も見定めながら、進めていきたいと思えます。

委 員 もう一点質問です。

「文化財の活用」に関して、日立市では風流物や長者山遺跡などは市内外からも関心が高まっているところですので、大変良いことだと思いますが、できれば学校教育の視点も取り込んでいただければありがたいと思っています。その辺りの考えをお聞かせいただけますか。

指 導 課 長 本市は、豊かな自然や独自の産業や文化などを育みながら発展してきた歴史があります。また、工業のまちとして発展する前から、先人たちが長い歴史の中で、有形・無形の地域資源を残してくれています。

現在学校においては、基本は学習指導要領に合わせながら、小学校1、2年生においては生活科で、3、4年生では社会科や理科、その他の学年では総合的な学習の時間において、市内の歴史、文化、自然などを学ぶこととなっています。地域の自然をいかしたこのような学習は、見たり、聞いたり、触れたり、五感を使って学ぶ内容ですので、子どもたちの理解も高まるものと考えています。

市内には、委員からもお話のありました、日立風流物や長者山遺跡など全国に誇れる文化財がありますので、学校教育の中でこれらを活用していくことについて検討する必要があると考えています。

先程、今回の計画の中には、“日立市の発展と「日立力」”という項目を設けたという説明もありました。この「日立力」をつないでいくため、本市固有の伝統や文化を学ぶ機会の更なる充実を図り、「日立が好きだ」、「日立を誇れる」と言える子どもたちを育ていく必要があると考えています。それらに向けて、今後具体的に検討を進めてまいります。

委 員 小中連携・一貫教育についても、文化財の活用についても、現場の先生方にとって「これらの教育がこれから力を入れていかなければならないものなのだ」と受け止めてくれるかどうか大切で、そのために、教育委員会としてこの計画を発信していくことが重要になります。これからの発信の仕方、伝え方に期待したいと思えます。もう一点、要望があります。

「教育は日立市で！」の取組の中で、少年団、特に文化系の少年団は日立市のひとつの「売り」であると考えています。この計画にも記載のある職業探検少年団や、日立市文化少年団などは非常に充

実しています。文化少年団は、市長部局の市民活動課の担当であるため、教育委員会としてではないかもしれませんが、ぜひこれらの取組も入れ込んでいただければと思います。

また、子どもたちの安心安全のために活動する防犯サポーターなどもあります。こちらも教育委員会ではなく、生活安全課の担当になりますが、これらも子どもたちの豊かな育ちにつながっていくものだと思います。

教 育 長 ありがとうございます。只今の御要望につきましては、市の実施計画等に反映できるよう考えていきたいと思えます。

委 員 これからの5年間でとても楽しみになるような計画だと思えます。

計画の趣旨の中に「福祉との連携」の記載がありますが、福祉の分野においても今後5年間で法律改正等により、変化していく部分があるかと思えます。その際は、社会のニーズに合わせて柔軟に変化させていく必要があるのかなと感じました。

特に、全ての子どもたちが安全・安心に過ごせる居場所づくりに関しても、この計画には新しいことが盛り込まれていますが、もうすでに別な形で新しく展開させている地域もあるようです。その辺りも含めて、ぜひ柔軟に変えていただければと思います。

総 務 課 長 計画期間の5年は、国の計画も5年を目途としていることや、これまでの市の計画も5年としていたことが経過としてあります。

委員がおっしゃったとおり、時代の流れに伴い、制度の改正等が頻繁に行われている状況です。社会情勢等で教育を取り巻く環境に大幅な変更等がありましたら、極端に言えば、計画期間を待たずに早めに改訂を行うなど、柔軟に対応していきたいと思えます。

委 員 私が一番気になるのはアセスメントの部分です。「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」でそれを行うと計画には記載はありますが、いままでも点検評価はしていても、事業はあまり減っていないように感じます。

同じようなことが何度も出てくるということは、働き方改革とは言っていても、どれをやるのか、どれをやめるのかをはっきりさせて、どのように整理していくか、事業の見直しに対する本気度があるのか、疑問に感じてしまいます。

働き方改革により、先生方が子どもたちと向き合う時間を設けたいということが目的なのであれば、その辺りについてどのようにお考えか教えていただきたいと思います。

総務課長 働き方改革については、計画の中でも「よりよい教育環境づくりのために」と見出しを付け、重要な課題として位置付けております。学校現場の先生方につきましては、現在、学務課が勤務実態の調査を実施しているところです。このような取組を徐々に始めているところです。それらを踏まえて効果のある施策を組み立てていければと考えております。

また、点検評価の部分につきましては、確かに、計画の中に「この事業を5年以内に廃止します」というような記載はありません。しかしながら、我々としては、計画に記載した全ての事業を必要性があって取り組んでいるものと認識しております。スクラップアンドビルドという言葉が昔からありますが、現在はそれがより求められている状況かと思えます。

点検評価制度は、もちろん教育委員会にお諮りしてから公表するものですが、これまでも内容が細かいという御意見をいただいているところです。新たな計画になるというタイミングでもありますので、点検・評価制度についても見直しを図っていければと思います。

教育部長 現在、教職員対象の勤務実態調査を行っている中で、望む事業と望まないと思う事業を伺っています。

教育委員会事務局側があった方がいいと考えているものと先生方の認識とのかい離を埋めなければならないと認識しておりますので、調査結果を集計し、先生方が望むもの望まないものに柔軟に対応して事業の組み立てを行っていければと考えております。

集計が整いましたら、改めて結果を御提示しますので、御意見をいただければと思います。

委員 先程、教育を受ける側のニーズのお話もありましたが、基本的には、親はこの計画を読まないこととなります。親の立場からすると、子どもがいま必要としているサービスを、いまくださいと考えていると思います。2045年にはAIが人間の知能を超えと言われていて、いまの小学生が30代の働き盛りの時に当たります。そうすると、うちの子はちゃんと職業に就いているのか、ちゃんとご飯を食べていけるのか、更にそこから50年後、80歳～90歳になるまで収入を維持していくだけの力が付いているのかということが、親としては一番心配な部分です。この計画に書かれていることが礎になってくれるように期待していますし、そうなるように、社会の変化に合わせて随時対応しながら、ぜひより良いものにしていただければと思います。

総務課長 現在の国の計画においても、2030年を見据えたものとなっております。市の計画では、先々まで見込むことは難しいところでは

ありますが、将来を見据えるという意味では、計画の基本理念で説明しましたとおり、まさに委員がおっしゃった将来を生き抜くための力を育むことを目指していきたいということで作成しました。

指導課長　いまの御意見をいただいて、保護者の皆様の目線は、学校として大事にしていかなければならないところだと改めて感じたところです。

新学習指導要領においても、10年度、20年後の社会の様子を見据えた改訂になっていますが、やはり大事なのは、いま目の前にいる子どもたちが、10年後、20年後どんな姿に育っていくかを、学校現場と直接子どもたちを支える教員一人一人が感じながら指導していくことが大切だと思います。

そのためには、今回改訂されたこの計画をしっかりと学校現場にも浸透させ、先を見据えた教育が市内のどの学校でもできるように、教育委員会としても助言をしていきたいと考えております。

教育長　それでは、議案第1号について、可決することよろしいでしょうか。

全委員　異議なし。

教育長　議案第1号については、原案可決と決しました。

議案第2号　日立市指定文化財の指定について

教育長　次に、議案第2号について、郷土博物館長から説明をお願いします。

郷土博物館長　日立市大久保町の鹿嶋神社流鏝馬を日立市指定文化財（無形民俗文化財）として指定することについて提案するものです。

名称及び員数は、鹿嶋神社流鏝馬1件です。

実施場所は、日立市大久保町二丁目2番11号の鹿嶋神社、管理者は、鹿嶋神社流鏝馬保存会です。

指定区分は、無形民俗文化財第2号となります。

指定の理由は、鹿嶋神社流鏝馬は、江戸時代初期には行われていた記録があり、茨城県内で最も古い流鏝馬であると言えます。また、現代においても、保存継承のために鹿嶋神社の氏子を中心として鹿嶋神社流鏝馬保存会が組織され、地域住民が祭事の実施を担っており、市民の郷土に対する認識を高めるとともに、文化の向上に資する重要な文化財であることです。

なお、指定に際しましては、日立市文化財保護審議会に諮問し、指定が適当であるとの答申がありましたので、日立市文化財保護条例の規定に基づき指定するものです。

教 育 長 それでは、議案第2号について、可決することによろしいでしょうか。

全 委 員 異議なし。

教 育 長 議案第2号については、原案可決と決しました。

4 そ の 他

(1) インフルエンザ様疾患発生による学級閉鎖の状況について

教 育 長 続きまして、その他に移ります。
その他(1)について、学務課長から説明をお願いします。

学 務 課 長 日立市内においても、先週からインフルエンザの流行が目立っており、それに伴い、学級閉鎖が増えてきています。

これまでに学級閉鎖措置を行った学校・幼稚園は、1月22日現在で、小学校は18校、中学校は3校、幼稚園は2園という状況です。

次に、学校・幼稚園における学級閉鎖措置の経過です。1月16日(火)に市内10校で今季最初の学級閉鎖等の措置をいたしました。また、日立保健所管内の北茨城市・高萩市においても、同日、最初の学級閉鎖等の措置を実施しています。学年閉鎖については、小学校8校、中学校1校、幼稚園2園です。

学級閉鎖措置の目安については、病気による欠席者が学級、学年、学校全体で20%を超過した場合は、学校医と協議の上で閉鎖を決定します。なお、超えない場合でも予防のために、早退者が多い場合などは、閉鎖を決定する場合があります。

インフルエンザに感染した場合の出席停止措置についてですが、発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日、幼稚園児については3日を経過するまでの期間は、出席停止となります。

学校に対する教育委員会からの注意喚起については、昨年11月に市内各学校へ、文書の送付により行いました。

市民への情報提供については、市及び教育委員会ホームページにおいて学級閉鎖の状況を掲載し随時更新しているところです。

参考としまして、茨城県全体では、インフルエンザ警報(流行指数30超)が、日立保健所管内では、インフルエンザ注意報(流行

指数10超)が発令されています。

学校全体での状況をみると、現在のところでは、市内の北部地区がやや多い状況にあり、小・中学校でみると、小学校の方が多い状況です。

(2) 記念図書館キャラクターについて

教 育 長 それでは次に、その他(2)について、記念図書館長から説明をお願いします。

記念図書館長 この度、記念図書館のキャラクターが決まりました。名前は「キトちゃん」です。ミミズクの男の子をモチーフとしています。

デザインは、日立市出身の絵本作家のなめかわ まい さんをお願いいたしました。なめかわさんの主な作品は、2015年の第4回MOE創作絵本グランプリで佳作となりました「とりこしふくろう」があります。現在、記念図書館のスロープになめかわさんの展示コーナーを設け、キャラクターのPRと作品の貸出をしています。

今回、記念図書館のキャラクターが決まったことで、市内4館全てのキャラクターがそろいました。南部図書館が「くじらちゃん」、多賀図書館が「ふわふわちゃん」、十王図書館が「テンちゃん」、そして記念図書館が「キトちゃん」です。今後は、このキャラクターを活用して、親しみやすい図書館づくりを図っていきたいと思います。

(3) 教育委員会関連行事等について

教 育 長 それでは次に、教育委員会関連行事等について、説明をお願いします。

ア 2019年日立市成人祝の実施報告について

生涯学習課長 教育委員の皆様におかれましては、寒い中、成人祝に御臨席賜り誠にありがとうございました。

最終的な対象者は、11月1日現在の住民基本台帳登録者数が全体で1,875人、登録外の者で、問合せ等により案内状をお送りした方が152人、合計2,027人でした。

参加人数は1,491人ですので、参加率は73.6%と、前年を2.5%下回っている状況です。

式典後のアトラクションでは、ディズニーランドのチケットやカ

タログギフト等を景品とした抽選会を実施しました。

池の川さくらアリーナで行いましたのは、昨年が続いて2回目となりましたが、屋内のため天候の心配もなく、暖かい中で実施できたこと、写真撮影までの導線をスムーズに確保できたことなど、屋内を会場としたことのメリットは大きかったと考えております。

今回の特徴としては、保護者等の来場が多かったという点です。通路の混雑も見られましたので、安全管理上、来年の実施に向けては、対応の検討をしておく必要性を感じたところです。

会場全体の警備は、警察官が約30名、教育委員会の職員が27名、委託した警備会社の警備員が10名で、大きなトラブルもなく、スムーズな進行ができたと感じています。

今後は、当日最後に行いました出身中学校ごとの記念撮影での写真を、出席した方々への記念品としてお送りする予定です。

イ 学校運営協議会制度全体研修会について

指導課長 本市におきましては、平成29年度から会瀬小学校と駒王中学校をモデル校として、平成30年度からは新たに7校をモデル校に指定して、学校運営協議会制度の有効性を検証してまいりました。

その実践に基づいた成果や課題を、学校・保護者・地域で共有し、更に先行地域の取組を学び、今後の拡充に備えるために当研修会を開催するものです。

日時は、2月7日（木）午後2時から午後4時50分まで、場所は消防拠点施設3階講堂です。

参加者は、学校関係者、保護者、コミュニティ関係者、市議会議員の皆様にもお声掛けしております。

内容は、塙山小学校と豊浦小学校の実践発表と、文部科学省のコミュニティ・スクール推進員（CSマイスター）としても御活躍の岸裕司先生を講師としてお呼びいたします。

ウ 映像制作学習の作品発表会について

視聴覚センター所長 視聴覚センターでは、小学校を対象として、情報教育を積極的に進め、情報モラルやコミュニケーション能力を育むことを目的として、平成29年度から総合的な学習の時間において、映像制作学習として授業の支援を行い、今年度は中小路小学校と中里小学校で取り組んでまいりました。その成果として、この度、作品発表会を行います。

日時は、2月21日（木）午前9時40分から、場所は市役所4階の防災センターです。

発表する作品は、中小路小学校は3作品、中里小学校は1作品です。各班でテーマを決め、何を伝えたいのかを考え、旬な情報を収集し、取材・撮影・編集・収録など、子どもたちがそれぞれの役割を経験して作品を完成させました。

なお、中里小学校では、コミュニケーション科として英語学習に取り組んでおり、その授業をいかして作品のナレーションは英語で行っております。

ぜひ皆様にも小学生の作品をご覧くださいと思います。

エ ひたちシネマスペシャル「カトマンズの約束」について

視聴覚センター所長 日時は2月23日(土)午後2時から、場所はゆうゆう十王・Jホールです。

上映作品は、震災国日本とネパールのあらたな絆を描く復興支援映画「カトマンズの約束」です。

この作品は、元大学教授の伊藤 敏朗 さんが監督をしており、昨年4月に日本で完成試写会を行いまして、一般公開による上映は、今回が国内で初めてとなります。

内容は、ネパールの震災における日本の救助隊とネパールの方々との絆を描いた2時間の作品で、復興中に開催されたネパールでの祭りが日本の諏訪大社の御柱祭と似ており、その対比についても描かれております。

作品の音声は、ネパール語は日本語字幕、日本語はネパール語字幕となっています。

当日は伊藤監督が来場し、映画の解説をいただくこととなっています。

司会進行については、日立北高等学校の生徒に担当していただきます。

5 次回の教育委員会の日程について

教 育 長 それでは、次回の教育委員会定例会の日程について、総務課長からお願いします。

総 務 課 長 平成31年2月27日(水)午後2時30分から、日立市役所4階庁議室で開催予定です。

6 閉 会

教 育 長 それでは、以上をもちまして、教育委員会1月定例会を終了します。

以 上